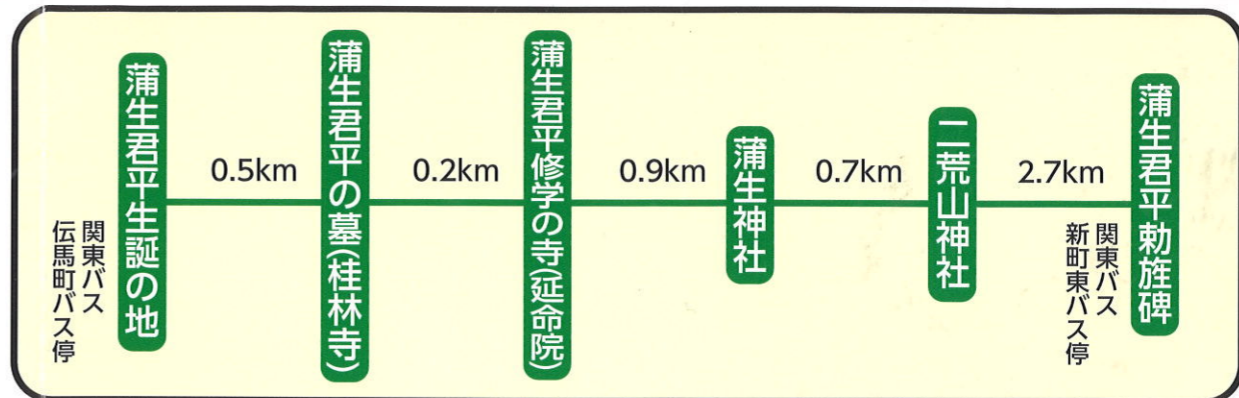




表紙の説明

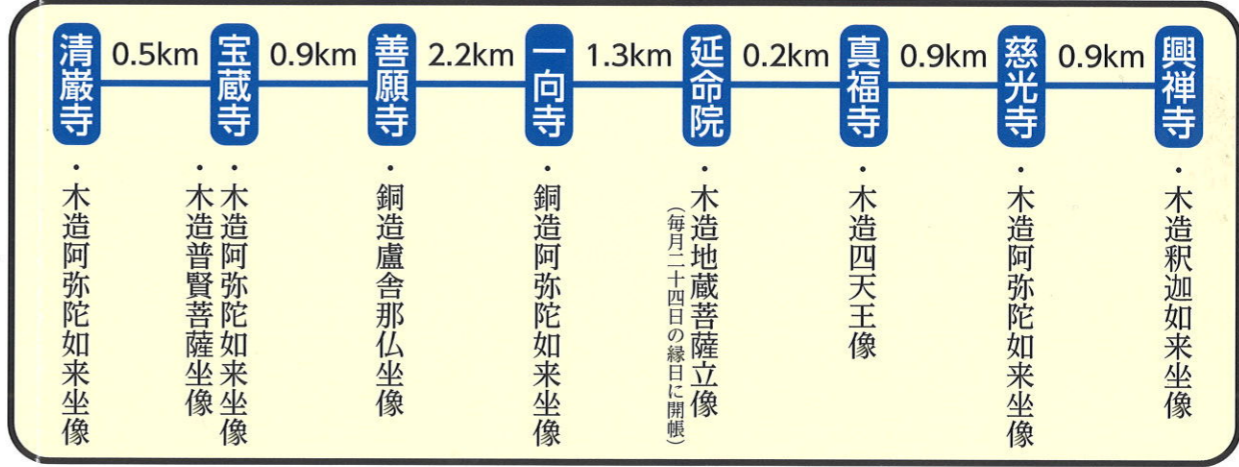
表紙の絵は、『宇都宮大明神祭礼図』(市指定文化財)の中の絵図で、本市を代表する祭りである菊水祭の時に、市内の屋台が二荒山神社の鳥居の前に勢揃いしたところです。



たかやまひこくろう はやししへい かんせい さん きじん
 高山彦九郎、林子平とともに「寛政の三奇人」といわれ、江戸時代後期の学者・尊王論者であった蒲生君平のゆかりの地を訪ねるコースです。

明和5年(1768)に蒲生君平が生まれた「蒲生君平生誕の地」からスタートし、君平の遺髪が分骨されたといわれている桂林寺、良快和尚に読み書きの手ほどきを受けた延命院、大正年間に君平を祀るために建立された蒲生神社、明治22年(1889)に二荒山神社の境内に建碑された蒲生君平の碑、明治天皇の勅命により建てられた蒲生君平勅旌碑をめぐるコースです。

③ 仏像めぐりコース (所要時間: 6時間・約7km)



宇都宮市中心部の寺院に安置されている仏像を訪ねるコースです。
 江戸時代の宇都宮には、城の要所を固める役割を果たした寺院が街道の出入口に計画的に配置されていました。歴代の宇都宮城主が開基したり、大きくかかわった寺院が数多く見られます。

度重なる災難を免れ、「大豆三粒の金仏」の伝説で有名な露坐の盧舎那仏のある善願寺、この世に異変が起こる前になると、汗をかくという「汗かき阿弥陀」のある一向寺、江戸時代に造られた地藏堂に安置され、毎月24日の縁日に開帳される地藏菩薩のある延命院、宇都宮でも数少ない平安時代に造られた仏像のある慈光寺などをめぐります。